

社会福祉援助技術実習指導A			科目コード	CP3190
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
1	SR(演習)	2年以上	高橋 誠一/三浦 剛/石附 敬/竹之内 章代/ 元村 智明/相場 恵/二渡 努/芳賀 恭司/ 佐々木 裕彦/中里 雅之ほか	

※2009年度以降入学者に対して開設されている科目です。2021年度1年次入学者、および2008年度以前入学者、福祉心理学科の方は、履修することはできません。

※スクーリング受講は3年次以上（実習申込が受理された後）。

※レポート提出期限や期間が指定されています（p.192「■各課題提出期限・提出方法」参照）。

※「実習指導A」のスクーリングを欠席された方は、「実習指導B」および「社会福祉援助技術実習」は受講できません。

科目の概要

■科目の内容

社会福祉士として必要な具体的かつ実践的な専門技術等の習得を図ることを目的とします。また、併せて社会福祉援助技術実習の意義について理解をするとともに、児童・高齢者等、実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解をすることを目的とします。

また、次年度の相談援助実習に向けて、実習計画の意義と策定方法を学びます。そして、これまで学修してきた社会福祉学の専門知識を深化させるとともに、各自の援助能力の開発・今後の課題の明確化・自己理解を深める場とし、相談援助専門職としての倫理観を理解する機会とします。

■到達目標

- 1) 実習をおこなう施設・機関等を利用する地域や利用者の実態、生活ニーズ等について具体的データ等を示しながら説明することができる。
- 2) 実習をおこなう施設・機関等の根拠法、機能、業務内容について説明できる。
- 3) 実習をおこなう施設・機関等においておこなわれている関連業務の内容や他職種の役割等について説明できる。
- 4) 「実習計画案」を作成することができる。

■教科書（「実習指導B」「実習」と共通）

- 1) 『社会福祉援助技術実習の手引き（第1分冊）』東北福祉大学（「演習A」時に配付済み）
- 2) 『社会福祉援助技術実習の手引き（第2分冊）』東北福祉大学（「実習指導A」スクーリング受講許可者に配付）
- 3) 『社会福祉援助技術実習 課題ノート』東北福祉大学（「実習指導A」スクーリング受講許可者に配付）
- 4) 長谷川匡俊・上野谷加代子・白澤政和・中谷陽明編『社会福祉士相談援助実習 第2版』中央法規出版、2014年

（最近の教科書変更時期）2014年4月

(スクーリング時の教科書) 「■教科書」に記載のものを使用します。旧版を所持している場合も受講に支障がないよう資料を配付します。

■履修登録条件

この科目は「演習A」と同時に履修登録をしてください。

※その他、履修の前提科目は『学習の手引き』3章をご参照ください。

■参考図書

- ① 早坂聡久・増田公香・福祉臨床シリーズ編集委員会編『相談援助実習・相談援助実習指導—ソーシャルワーク現場実習・ソーシャルワーク実習指導』弘文堂、2009年
- ② 川廷宗之・藤林慶子・高橋流里子著『相談援助実習 (MINERVA 社会福祉士養成テキストブック)』ミネルヴァ書房、2009年
- ③ 日本社会福祉士会編『改訂 社会福祉士の倫理—倫理綱領実践ガイドブック』中央法規出版、2009年
- ④ 各社発行の福祉小六法・社会福祉辞典
- ⑤ 東北福祉大学通信教育部『社会福祉援助技術実習の手引き【第2分冊】』中記載の各参考文献

(事典、辞典、資料)

- ① 日本地域福祉学会編集『地域福祉事典 新版』中央法規出版、2012年
- ② 中央法規出版編集部『社会福祉用語辞典』中央法規出版、2010年
- ③ 山懸文治・柏女霊峰編集『社会福祉用語辞典 [第9版]』ミネルヴァ書房、2013年
※第8版などでも可
- ④ 社会福祉法規研究会編集『社会福祉六法 平成30年版』新日本法規出版、2017年
- ⑤ 厚生労働統計協会編集『国民の福祉と介護の動向』厚生労働統計協会、各年版
- ⑥ 厚生労働統計協会編集『保険と年金の動向』厚生労働統計協会、各年版

(実習)

- ① 澤伊三男編『ソーシャルワーク実践事例集—社会福祉士をめざす人・相談援助に携わる人のために—』明石書店、2009年
- ② 久保、副田編著『ソーシャルワークの実践モデル』川島書店、2006年
- ③ 日本福祉士会編『改訂 社会福祉士の倫理—倫理綱領実践ガイドブック』中央法規、2009年
- ④ 加藤幸雄・小椋喜一郎・他『相談援助実習—ソーシャルワークを学ぶ人のための実習テキスト—』中央法規、2010年
- ⑤ 深谷美枝『ソーシャルワーク実習—より深い学びをめざして—』みらい、2009年
- ⑥ 川廷宗之・高橋流里子・藤林慶子編著『相談援助実習 (MINERVA 社会福祉士養成テキストブック7)』ミネルヴァ書房、2009年
- ⑦ 相談援助実習研究会編『はじめての相談援助実習』ミネルヴァ書房、2013年

(インターネット)

- ① 厚生労働白書 http://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusho/hakusho/
- ② 厚生労働統計一覧 (1. 人口・世帯 2. 保健衛生 3. 社会福祉 4. 老人保健福祉 5. 社会保険 6. 社会保障等) <http://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/>

- ③ 福祉・医療・介護関係諸統計リンク集（医療福祉機構） <http://hp.wam.go.jp/useful/link/tabid/348/Default.aspx>
- ④ 厚生労働省法令等データベースサービス <http://www.hourei.mhlw.go.jp/hourei/>
- ⑤ WAM NET（医療福祉機構 総合情報サイト） <http://www.wam.go.jp/>
- ⑥ 日本社会福祉士会 <http://www.jacsw.or.jp/>
- ⑦ 社会福祉振興・試験センター <http://www.sssc.or.jp/>
- ⑧ 日本社会福祉士養成校協会 <http://www.jascsw.jp/>

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「自他尊重的コミュニケーション力」「他者配慮表現力」「自己コントロール力」「クリティカルシンキング力」「アセスメント力」「問題解決力」を身につけてほしい。

■単位認定方法

レポート60%＋授業への参加態度20%＋発表20%で評価します。

スクーリング

■実習指導 A スクーリング受講条件

3年次以上で、実習申込受理判定に合格していること。※受講許可証は、実習申込受理通知に同封します。

■スクーリング申込方法

『実習の手引き 第1分冊』（「演習 A」スクーリング時に配付）巻末の「実習指導 A スクーリング受講申込用紙」を「実習希望届」に同封し、9/15必着でお申込みください。

■スクーリング開講予定

スクーリングは毎年2月頃に行います。ただし、4月生休学明けの方、4月生科目等履修生として実習を行う方は4月上旬になります。

※開講日の詳細は『試験・スクーリング情報ブック』を参照してください。

※実習受理条件の達成が遅かったり、実習先がなかなか決まらない場合、希望の日程・会場でスクーリング受講ができないことがあります。

■スクーリングで学んでほしいこと

社会福祉援助技術実習の意義について理解をするとともに、児童・高齢者等、実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解をする。

また、次年度の相談援助実習に向けて、実習計画書の意義と策定方法を学ぶ。そして、これまで学修してきた社会福祉学の専門知識を深化させるとともに、各自の援助能力の開発・今後の課題の明確

化・自己理解を深める場とし、相談援助専門職としての倫理観を理解する機会とする。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	実習分野における利用者理解	児童、障がい者、高齢者等各領域における利用者理解
2	実習関連分野における理解	施設、事業者、団体、地域社会等
3	関連業務に関する理解	介護、保育等
4	「実習計画案」の作成の意義と方法	作成の意義と方法

■講義の進め方

教科書および配付資料等を活用しながら、実習関連分野における理解を深めるとともに、実習計画書の策定方法について具体的説明を行います。試験は行いません。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

事前課題（p.192課題②）に取り組んでおくこと。

レポート学習

■在宅学習8のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	社会福祉士養成と相談援助実習 相談援助実習の位置づけ (教科書4) 第1部第1章)	「相談援助実習の位置づけ」について、資格制度の見直しやその養成課程を理解する。 キーワード：資格制度、養成課程、教育カリキュラム	社会福祉士に求められる役割と新たな教育カリキュラムについて理解しましょう。また、相談援助実習の基本的枠組み、実習担当教員要件、教育内容等について理解しましょう。
2	相談援助実習ガイドライン 相談援助実習・実習指導ガイドラインの見方 相談援助実習評価表 (第1部第2章第1～2節)	相談援助実習ガイドライン、相談援助実習指導ガイドライン、相談援助実習評価表について理解する。 キーワード：相談援助実習ガイドライン、相談援助実習指導ガイドライン、相談援助実習評価表	相談援助実習ガイドライン、相談援助実習指導ガイドライン、相談援助実習評価表の具体的な内容について理解しましょう。
3	ソーシャルワーカーとしての社会福祉士 社会福祉士とソーシャルワーカーの関係 社会福祉士の新たな役割と機能 ソーシャルワークの枠組みをとらえる 社会福祉士の義務 (第1部第3章第1～4節)	ソーシャルワーカーとしての社会福祉士とはどういう意味であるのかを役割や機能、ソーシャルワークの枠組みを通して理解する。 キーワード：ジェネラリスト・ソーシャルワーカー、ソーシャルワーク機能、価値、倫理、知識、技術、義務、ソーシャルワークの枠組み	ソーシャルワーカーとしての社会福祉士とは何か。キーワードを中心に学習し理解しましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
4	実習の場と形態 法令上の相談援助実習施設 フィールド・ソーシャルワーク とレジデンシャル・ソーシャル ワーク実習 第1次分野と第2次分野と相談 援助実習の場 さまざまな実習の形態 (第1部第4章第1～4節)	法令上の相談援助実習施設の範 囲、フィールド・ソーシャルワ ーク、レジデンシャル・ソシ ャルワークの特徴と分類、そし て第1次分野、第2次分野の代 表的実習先を理解する。 キーワード：施設の範囲、フ ィールド・ソーシャルワーク、レ ジデンシャル・ソーシャルワ ーク、第1次分野、第2次分 野	法令上の相談援助実習施設の 範囲を法律ごとにまとめてみま しょう。また、フィールド・ソ シアルワークとレジデンシャ ル・ソーシャルワークの特徴に ついて、そして第1次分野、第 2次分野における代表的な実 習先について理解しましょう。
5	契約関係の中にある実習 実習契約関係の理解 実習機関・施設におけるリスク マネジメント 契約書の例 (第1部第5章第1～3節)	実習における契約の意義につい て、また、契約内容について理 解する。併せて、プライバシー 情報を含む実習機関における リスクマネジメントの必要性に ついて理解する。 キーワード：実習契約、リス クマネジメント、プライバシー 情報	実習における契約書締結の意 義について、「実習委託と指導 関係の構造」から整理してみま しょう。また、実習にかかわ るリスクとなどのようなことが 考えられるのかまとめてみま しょう。そして、契約書の具 体的な内容例を教科書から理 解しましょう。
6	実習スーパービジョンの理解 スーパービジョン概論 実習スーパービジョン関係の理 解 実習スーパービジョンの実際 (第1部第6章第1～3節)	スーパービジョン、実習スー パービジョンの意義および定 義、機能、効果について、ま た、スーパービジョンの構造 とスーパーバイザーの権能に ついて理解する。 キーワード：スーパービジ ョン、実習スーパービジ ョン、スーパービジョン機 能(管理・教育・支 持)、スーパーバイザーの 権能	スーパービジョンおよび実 習スーパービジョンの意義 および定義、機能、効果に ついて理解しましょう。ま た、スーパービジョンの 構造とスーパーバイ ザーの権能について、実 習教育における二重の スーパービジョンシ ステムについて理解 しましょう。
7	実習準備・事前学習課題 実習機関・施設、地域の理解 事前学習として実習先を理 解する意義 相談援助実習機関・施設の理 解 実習機関・施設のある地域の理 解 (第2部第7章第1～3節)	事前学習の重要性を理解する。 また、各分野(高齢者、障 害者、児童、社会福祉協 議会、医療分野等)の 実習機関・施設を理解する。 キーワード：事前学習、実 習施設、地域踏査	事前学習の重要性を理解しま しょう。また、実習機関・施 設について、教科書を参考 に分野ごとに確認しまし ょう。また、地域理解の 方法も確認しまし ょう。
8	実習機関・施設、地域の利用者 理解と援助方法 実習機関・施設における利用 者の理解 実習機関・施設のある地域に おける利用者の理解 援助方法の理解 (第2部第8章第1～3節)	実習機関・施設における利用 者理解の方法について、ま た、実習機関・施設のある 地域における利用者理 解の方法について理解する。 また、施設および地域にお ける援助の方法について理 解する。 キーワード：利用者理 解、地域福祉の推 進、個別支援、他 の職種との連携、 在宅福祉サービ ス、小地域ネット ワーク活動、組 織化支援、社会 資源開発、地域 ケアシステム	実習機関・施設、地域の利 用者理解と援助方法につ いてキーワードを中 心にまとめま しょう。

■レポート課題

課題①	「演習 A」受講後に体験学習を実施のうえ『体験学習記録』を提出してください（体験学習免除希望者は、『体験学習記録』の代わりに「実務経験実績報告書」を提出）。 ※すべてペンによる手書き。 ※体験学習→「社会福祉援助技術演習 A」の項を参照。
課題②	『社会福祉援助技術実習 課題ノート』（すべて鉛筆書き）の p.5～27を、あらゆる資料を活用して完成させてください。 ※スクーリング受講日（提出締切日）までに、実習先が決定していない場合は、p.6 および p.26 「3. 社会福祉に関する事前学習」の②は記載可能な箇所のみで構いません。 ※残りの箇所は、「社会福祉援助技術実習指導 B」での課題となります。 ※『課題ノート』はスクーリング受講許可者に配付します。
課題③	あなたはなぜ「社会福祉援助技術実習」を希望しましたか。また、実習で学びたいことは何ですか。目標や希望を具体的に述べてください。 ※通常のレポート提出台紙を使用。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■各課題提出期限・提出方法

課題 1：「演習 A」スクーリング受講後、

- 『体験学習記録』の場合：実習受講前年の12/20必着
- 「実務経験実績報告書」の場合：実習受講前年の9/15必着
- ※科目等履修生は『実習の手引き 第1分冊』参照。
- ※郵送（封書にて）または窓口持参。

課題 2：「実習指導 A」スクーリング受講日

- ※スクーリング会場にて回収しますので、必ず持参してください。忘れた場合や記載内容が不十分な場合（空白箇所がある等）は、スクーリングが不合格となり、次年度の実習受講はできません。
- ※スクーリング受講日までに実習先が決定しなかった場合、実習先に関する課題については「実習指導 B-1」スクーリングまでに完成させ、スクーリング当日提出してください。「実習指導 B-1」スクーリング後の大学への提出は実習後になります（実習指導 B の課題 4）。

課題 3：実習受講前年の9/1～10/31必着

- ※科目等履修生は『実習の手引き 第1分冊』参照。
- ※郵送または窓口持参。
- ※教員名は未記入のこと。

【注意】課題 1 → 3 → 2 の順で、取り組みます。